



ジャスティス

JUSTICE

コンセプト

自らを変える!! 明日を創る!!
イースト イノベーション!!

ジェイアール・イーストユニオン

発行責任者 菅野一位
編集責任者 瀬戸信作〒105-0021
東京都港区東新橋2-8-28
TEL (J R) 057-7333
TEL (NTT) 03-6452-9687ホームページ検索
「J R E ユニオン」

東京地方本部で

三名 組織拡大

労組に属さないという考え方の蔓延は由々しき事態
労働組合の意義を伝え、更なる組織拡大をはかる

私たちと共に新しい労働運動を作ろう。新しい当たり前前をJR東日本全体に広めていこう。

JR東日本の将来を考え、下した決断に間違いはありません。JREユニオンが所属するJR連合、全国8万2千名の仲間と共に歓迎します。自らの明日を共に切り拓いて行きましょう。

JR東日本の労使関係を憂慮する将来の仲間に對して、私たちが目指す理念と信念の思いを伝えよう。

未来に誇れるJR東日本の創造のために、真に必要なとされる労働組合とはどのようなものかを考える。

祝・組織拡大

新潟地本に続き
東京地本で
3名の組織拡大

JR連合「第10回

安全シンポジウム」

JRグループ全体の安全確立にむけて

JR連合は、安全最優先の意識を浸透・共有化する目的で5月10日、ホテルグランヴィア広島に於いて「第10回安全シン

へ鉄道の歴史、特に国鉄改革の必要性や鉄道マンとしての誇りと責任も継承しなければなりません。

〈私たちが目指す

理念と信念〉

① 企業内労働組合として会社内の社会的信頼と発展が、そこに働く社員の幸せに直結することを土台に、労働条件の向上と

労働環境の改善をしつかり議論できる労使関係を構築しよう。

② 会社発展のため施策提言型の運動をベースに、労働組合としてのチエツク機能も果たせる労働運動を構築しよう。

③ 国鉄時代への帰属を思わせるような権力や会社を一方的に敵視する組合運動を見直そう。

関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」という目標の達成にむけて、他産業や現場の事例を学び、すべてのJR関係労働者の幸せの実現にむけて、着実に行動していくといった挨拶があった。

事故防止は「事故後の対策」から「事故の未然防止」へ

第1部は、河合篤西日本旅客鉄道株式会社安全研究所所長より「ヒューマンエラーを減らすためにヒトの特性とヒューマンエラー」について基調講演を頂いた。

第2部は、加盟組合3単組から取り組みの報告がなされた。

第3部では、「ヒューマンエラーにどのように向き合っていくか」をテーマに、労働科学研究所酒



第3部 パネリストの皆さん

JR 連合・第10回 安全シンポジウムに参加して

齋藤 修

新潟地本執行副委員長

基調講演では、ヒューマンエラーは「0」にはならない。人間は「分かった振りをする」「不都合な情報を言わない」「安楽に生きるヒューマン・ファクター」と作業内容や作業環境などが合致せずエラーになるヒューマンエラーがある。こうした人間の特性を理解して安全の確立に取り組む必要がある。新人は知識不足で先輩の確認等に分かった振りでごまかし、エラーを起こす。熟練者は基本と違うが大丈夫だからと楽な方法を取る。



2017年度決算、
当期純利益は過去最高。
納得のいく成果配分を求める!!

「夏季手当」(再確認) 支払いの要求について

(申8号) (5月14日提出)

**基準内賃金の
3.2ヶ月分を6月29日
までに支払うこと。**

- ・成績率の適用については、公正厳格に行うとともに、人材育成に有効に活用すること。
- ・好調な企業業績を踏まえ、投資を行うこと。

私自身、業務の中で基本動作を常にやっているかと考えると、稀に不安を感じることがある。同僚は、どうなのかと思うこともある。業務のエラーを最小限にするために日頃から「コミュニケーション」の大切さが訴えられた。「先輩と後輩」「上司と部下」または、「JRとパートナー会社や協力会社」の壁を越えて間違いを正し合いヒヤリハットも隠すことなく報告できる環境や風土が望ましい。

白河の研修センターに事故の歴史展示館がある。羽越線脱線事故現場には、誰でも献花できる慰霊碑がある。今は薄れたヒヤリハットメモの存在等々、安全を考える機会やツールがあることを再認識させられた。

和知利昭

前中央執行委員

は・・・最も安全と認められるみちを取らなければならぬ」ということの認識が薄かったのではない。この一年間で死亡労災事故も4件発生、報告があった。河合所長が基調講演で話したように、鉄道では大きな事故が発生してから安全対策を行ってきた傾向がある。今一度、尼崎脱線事故直後の安全に対する危機感を持つようにしなければならぬという言葉が身に染みた。

添田寿男

仙台地本執行委員長

JR 連合第10回安全シンポジウムはヒューマンエラーにどう向き合うか、組織の枠を超えた安全への取り組みをテーマとして開催された。

基調講演は、JR西日本安全研究所所長、河合篤氏より、人間の特性から発生するヒューマンエラーについて詳しく述べられた。また、事象が発生しないと対処しないシステムを変えなければならぬ。先取りした対策が重要と述べられた。3単組からの報告は、

実際に発生した事象と対策の取り組み、安全に対する問題意識を高めるための実践等が報告された。パネルディスカッションでは、ヒューマンエラーにどのように向き合っているかをテーマに、鉄道事業の一層の発展に向けて、働き方、人材、コンプライアンスの面からヒューマンエラーに結び付く要素を挙げ、様々な観点から議論がなされた。

乗務員勤務制度の見直し について「提案」を受ける

本部は、5月17日、乗務員勤務制度の見直しについて提案を受けた。現在の乗務員勤務制度は平成4年3月に制定され、26年間運用されてきた。

時代の変化に対応するため業務改革や生産性の向上が求められるなか、

イーストユニオンは、実際に働く者の声が出し、反映されたものである。さらに、働き方の改善と効率化について、よく分析検討したうえで、本提案がより良い勤務制度に成るよう、組合員の声を集め、次世代に向けて乗務員勤務制度をめざす。

【提案の項目】

1. 多様な働き方の実現
2. 効率化の
3. 働きがいの
4. 賃金制度の改正
5. その他
6. 実施時期…平成30年度末ダイヤ改正(予定)に合わせて実施する。

ら議論がなされた。ヒューマンエラーは結果であつて原因ではない。それを無くすには如何にすべきか。人間はミスをすることを前提として、それを防止するにはシステム化、働き方、作業内容、作業環境等、日々の中から考え対策を講じることが重要であると改めて意識させられた。